

新川流域水害対策計画 計画変更の概要

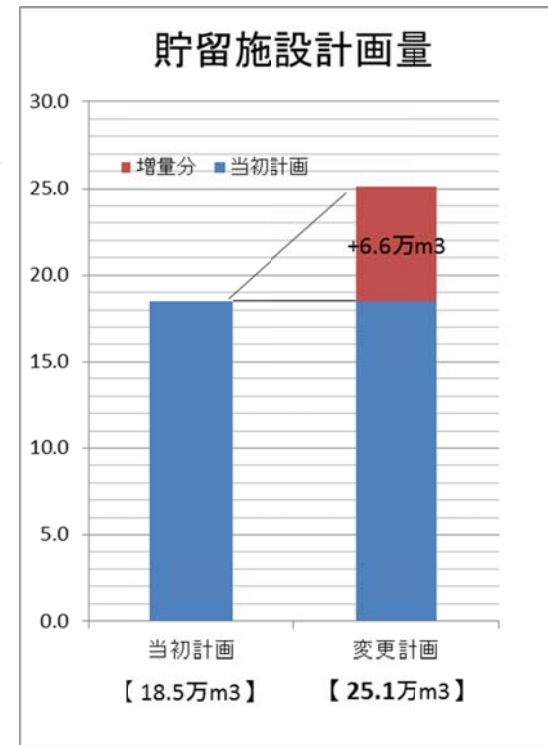
新川流域については、平成19年に流域水害対策計画を策定して事業の進捗を図っていますが、計画策定後、平成20年8月末豪雨、平成23年9月台風15号などの豪雨被害を受け、事業の早期効果発現、流域の安全度のさらなる向上等のため、計画変更を行いました。

①流域の治水施設整備の推進

計画策定以降の浸水被害状況を踏まえ、流域の安全度のさらなる向上（市街地の浸水深、浸水頻度の減少）を目的として、流域対策の計画を変更しました。浸水被害発生状況に応じた施設整備の推進により、地先の被害軽減に着実な効果が期待できます。

- 河川管理者及び下水道管理者以外の者が行う貯留施設整備計画量
 流域合計：185,000m³→251,000m³(+66,000m³)
 春日井市 +20,000m³ 江南市 +21,000m³ 小牧市 +17,000m³
 清須市 +3,000m³ 扶桑町 +5,000m³
- 下水道雨水ポンプ場整備計画量（排水能力）：152m³/s→154m³/s(+2m³/s)
 小牧市 +2m³/s

※他に下水道管理者が設置する貯留施設（20.2万m³）を計画しています。（変更なし）

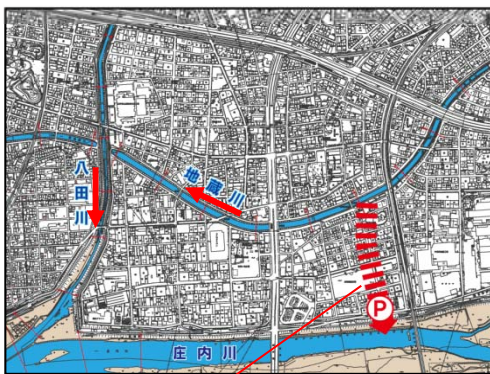


②地蔵川の計画変更

地蔵川は近年毎年のように氾濫危険水位を超過するなど整備の緊急性が高く、現計画の庄内川への放水路、排水機場による洪水調節の一部を、八田川経由に分散することで早期整備を目指します。

平成23年台風15号の被害を踏まえ、八田川の抜本的な整備（バック堤整備）に着手することと連携して、本変更を検討してきました。

【当初計画】



庄内川への放水路、排水機場の整備

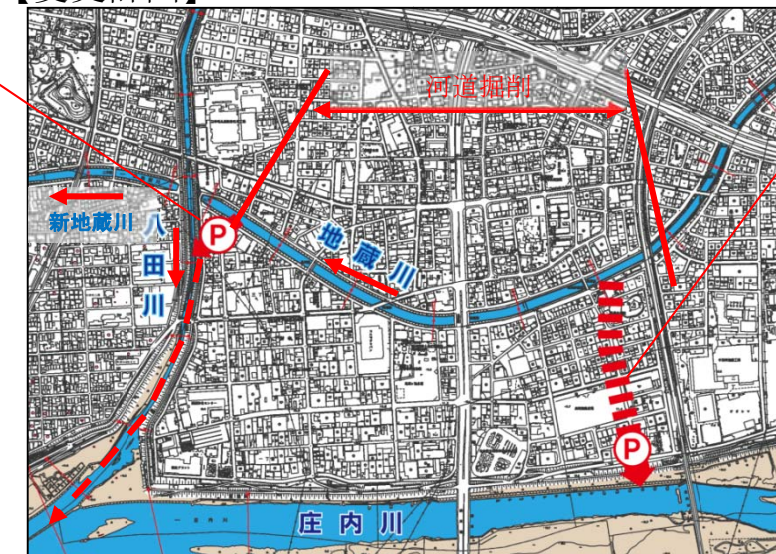
- ※計画降雨規模や庄内川への総排水量は変更しません。
- ※排水を受ける八田川についても、同時に計画変更しました。



八田川経由で庄内川へ排水排水機場の整備【新規】

地藏川、新地藏川の水位低下の効果があります。排水機場のみで効果が発現する八田川経由の排水機場を先行整備します。

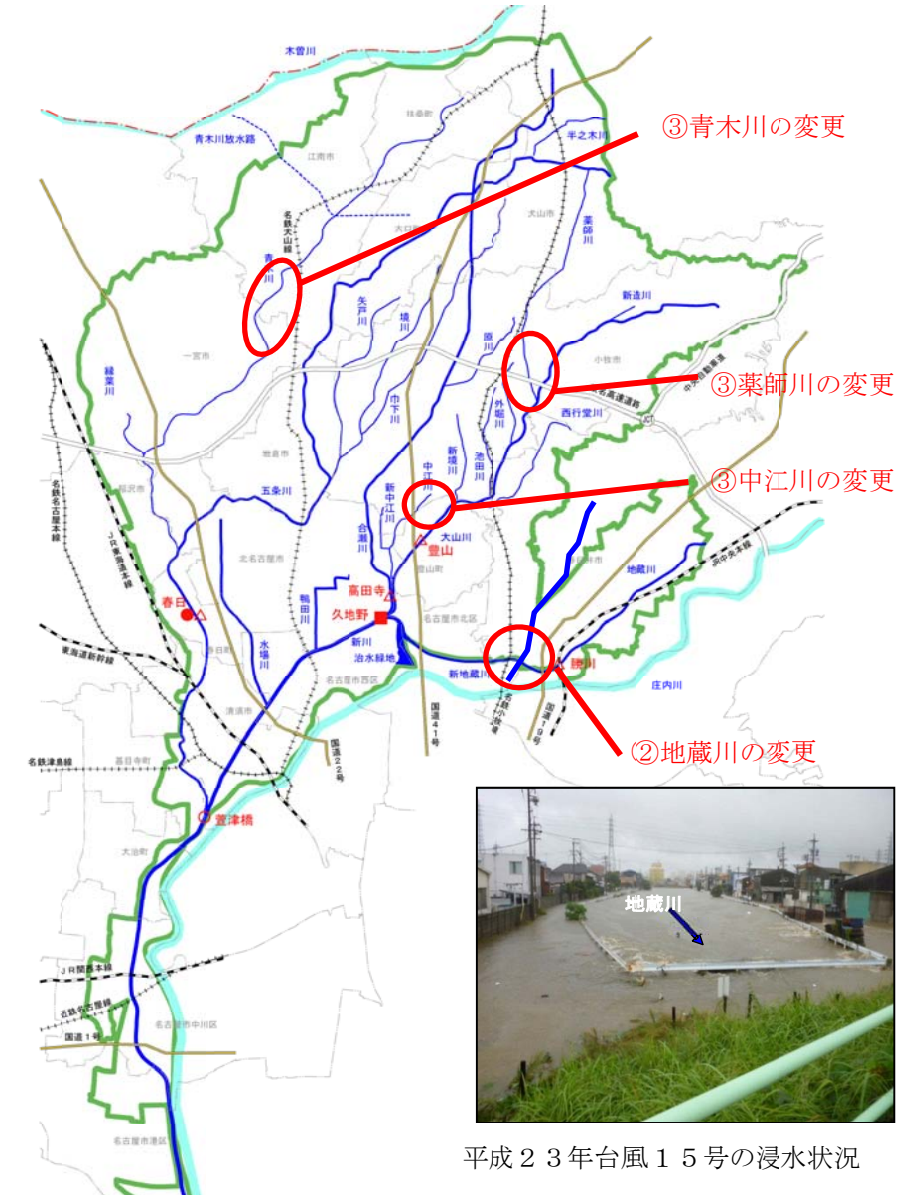
【変更計画】



庄内川への放水路排水機場の整備【規模縮小】

③その他の計画変更

実施に際した詳細な検討により、中江川、薬師川の縦断計画、青木川の横断計画の一部変更を行いました。



<新川流域の取り組みについて>

新川流域は、中京経済圏の中心を成す名古屋市及びその隣接の15市町からなり、かつ交通の便の良さから、近年著しく流域開発が進んでおり、流域面積250万km²の内60%以上が都市化されています。

このため、本流域では、河川のみ対策または下水道のみ対策だけでは浸水被害を防止することに限界があることから、過去より総合治水対策に取り組んできました。そして、この取組のいっそうの推進を図るため、特定都市河川浸水被害対策法により、平成18年に特定都市河川等の指定を行い、河川管理者、下水道管理者及び流域内の地方公共団体が共同で浸水被害防止のための計画（流域水害対策計画）を策定して、整備を進めています。

流域市町：名古屋市、一宮市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、清須市、北名古屋市、あま市、豊山町、大口町、扶桑町、大治町